

《生きる喜び 分かち合い》 献血にご協力ください

●日時

12月15日(水)
午前9時30分～正午/午後1時～4時

●会場

南河内庁舎北側駐車場

血液は、人間の生命を維持するために欠かすことができないもので、皆さんの善意による無償の献血が、病気やけがなどで輸血を必要としている患者さんの尊い生命を救います。皆さんの献血へのご理解ご協力をお願いします。

献血方法別の献血基準

	成分献血		全血献血	
	血漿成分献血	血小板成分献血	200mL献血	400mL献血
1回献血量	300mL～600mL (体重別)	400mL以下	200mL	400mL
年齢	18歳～69歳	18歳～54歳	16歳～69歳	18歳～69歳
体重	男性45kg以上・女性40kg以上			男女とも50kg以上

11月は乳幼児突然死症候群(SIDS)対策強化月間です。

乳幼児突然死症候群(SIDS)とはそれまで元気だった赤ちゃんが、事故や窒息ではなく睡眠中に突然死する病気です。原因は、まだわかっていません。日本では、およそ6,000人～7,000人に1人の赤ちゃんがこの病気で亡くなっていると推定されています。生後2か月から6か月に多く、まれに1歳以上でも発症することがあります。



SIDSから赤ちゃんを守るための3つのポイント

原因が解明されていないSIDSですが、次の3つを守ることで、発症の可能性を小さくできることがこれまでの研究で明らかになっています。

1. うつぶせ寝は避ける

うつぶせ寝が、あお向け寝に比べてSIDSの発症率が高いという研究結果が出ています。医学上の理由で必要などき以外は、赤ちゃんの顔が見えるあお向け寝に寝かせるようにしましょう。また、赤ちゃんをなるべく一人にしないことや寝かせ方に対する配慮をすることは、窒息死や誤飲、怪我などの事故を未然に防ぐこととなります。

2. たばこはやめる

両親が喫煙する場合、両親が喫煙しない場合よりSIDSの発症率が高くなるというデータがあります。妊婦自身が喫煙することはもちろん、妊婦や乳児のそばでの喫煙も避けるよう、身近な人の協力が必要です。

3. できるだけ母乳で育てる

母乳で育てられている乳児は、人工乳の乳児と比べてSIDSの発症率が低いといわれています。人工乳がSIDSを引き起こすわけではありませんが、できるだけ母乳で育てるようにしましょう。

厚生労働省ホームページで
ご覧いただけます

乳幼児突然死症候群(SIDS)の診断のためのガイドライン
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2005/04/h0418-1.html>

乳幼児突然死症候群(SIDS)診断の手引き
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/boshi-hoken06/index.html>